

[CONTENTS]

ピックアップ!	1 面
2024 年度前期 活動報告	1～3 面
学生団体活動紹介①	4 面
地域志向取組み	5 面
成果発表会出展一覧	6 面
学生団体活動紹介②	7 面
コラム	8 面

紙面リニューアル!



PICK UP!

前期成果発表会開催

令和 6 年 7 月 11 日 (木)、12 日 (金) の 2 日間にわたり、前期成果発表会を開催しました。各ゼミや学生団体など 7 団体がこれまでに取り組んできた活動を、スライドを用いた口頭発表にて、その成果を報告しました。また発表スライドを抜粋したポスターを 7 月 31 日 (水) まで掲示しました。

参加者からは「様々な形で地域と協働していることが知れるいい機会となった」「自分の普段関わらないような分野の話の聞けて面白かったです」などの声が寄せられました。(一覧は 6 面へ)



2024 年度前期 活動報告

『夢みる給食』——富山でのキャラバン上映会から

考える食と農と民主主義 中村秀プレゼンテーション演習

自然栽培と有機 (オーガニック) 栽培は、環境に負荷がかからないことや農薬や化学物質によるアレルギーの心配がないというメリットがあります。中村秀プレゼンテーション演習では、PEC とやまの主催のもと富山大学五福キャンパスで開催されたキャラバン上映会への参加や、自然栽培給食プロジェクト団体「まんま」へのインタビューを行い、オーガニック給食の可能性について考えました。



映画『夢みる給食』を見て、漠然としたイメージしかなかったオーガニックの魅力を知ることができました。また、有機農産物を作る人が少ないなかで、協働先の方々のオーガニックを全国に広めるといった熱意を感じることで、社会を変えるために行動することの大切さを学びました。

ドローンを活用したプログラミング体験教室の拡充

岩井プレゼンテーション演習

岩井プレゼンテーション演習では、射水市内の小学 5 年生を対象に、ドローンを使用したプログラミング体験教室を開催しました。昨年までの実施を通じて、ドローンのバッテリー交換やプログラミングの指導が人手不足で難しいことや、飛行ルールが守られないといった課題が明らかになりました。そこで今回は、学生がルールや重要事項を記載したパネルを作成し、説明の際に活用しました。その結果、子どもたちは説明やパネルを見ながら、自らバッテリー交換を行い、ルールに従った安全な飛行操作ができるようになりました。今後は、より大規模な小学校でのプログラミング体験教室を計画しています。



インフラ維持管理の効率化を目指して簡易技術の活用を考える 伊藤始トピックゼミ |

伊藤始トピックゼミでは、構造物の維持管理におけるコスト軽減と効率化を目指して簡易技術の活用を考えることを目的として活動しました。自治体と企業から現状の維持管理方法や新技術について学び、課題解決に向けて DIY 補修や 360° カメラ点検といった技術の活用方法を考えました。



また、自治体と企業に向けて審査会で提案し、その様子は新聞に取り上げられました。審査会では「効率化の提案だけでなく、その技術の使用感もお話ししてくれると好印象だった」や「今まで使われてきた方法と比較することでメリットを強調する点が良かった」といった意見をもらいました。今回のゼミは課題解決へのプロセスや効果的なプレゼン方法を学ぶ機会となりました。

黒河の地名と歴史について 福原教養ゼミ |

富山県立大学のある黒河は魅力ある歴史を持つ町です。福原ゼミではその魅力を周知するための冊子「黒河の歴史と地名」の作成を進めています。前期は、ゼミを歴史、遺跡、地名を調べる班に分けて調査を進めました。歴史班は黒河が奈良時代から江戸初期まで射水地区の主要な街であったことを文献から確認しました。遺跡班は過去の発掘調査報告を調べ、「黒川」と墨書された古代の土器が発掘されていることを見出し、「くろかわ」という地名が現在の定説より 500 年近くさかのぼる奈良・平安時代に成立していることを確認しました。地名班は黒河の小字(こあざ)の起源を調べています。後期は地域の皆さんへのインタビューも行って冊子にまとめる予定です。



富山県における生物多様性について考える 孫田トピックゼミ |

孫田トピックゼミでは、富山県の生物多様性をテーマに実習を絡めながら活動を行い、県内の自然保護の現状と課題について取り組みました。人々の暮らしは生物多様性によって支えられていることを、種や遺伝子、生態系の多様性について学ぶ中で再認識し、富山県で行われている身近な保全活動を学ぶため、富山市ファミリーパークや富山県中央植物園を訪問しました。また、立山でのフィールドワークを通して、域内保全や登山者による保全についても学ぶことができました。



訪問先の専門家や保全活動現場の体験学習を通して、実際の保全活動への参加に留まらず、生物多様性についての学習や保全活動の発信などにより、次の世代も含めた多くの人たちに啓発する重要性も学びました。

地域協働研究会 COCOS とは

COCOS とは 2014 年 4 月に県立大が設置した学生団体です。COCOS の名前の由来は COC(Center Of Community:「地(知)の拠点」※)と OS(Operating System:基盤)で、大学が進める地域協働の学生の主体として活動しています。地域の課題解決、魅力の発見、PR を行うため、地域の方々と対話や交流を重ねながら一緒に活動し、一緒に地域を盛り上げようとしています。

学内では、成果発表会の運営や地域協働の授業や取り組みを支援する COCTA(Teaching Assistant)も担っています。

※ 2013 年から本学が採択された文部科学省による「地(知)の拠点整備事業 =COC 事業」より



POLYGON による地域協働活動 学生団体 POLYGON

POLYGON は、企業や地域と協働して DX 促進や社会課題解決を行う取り組みをしています。

富山県都市農村交流事業広報アンバサダーとしての取り組みでは、昨秋に都市農村交流事業へ 5 回参加し、X と Instagram を使った広報や本学の学生にアンケート調査を行いました。このアンケート調査により、活動の様子がわかる動画を使った広報が農村活動体験の参加人数増加につながる可能性があることがわかりました。

また、富山県内の中高生を対象としたプログラミングスクール「Set up NEXT! PROJECT」にメンターとして参加しました。生徒は、2泊3日のハッカソン合宿にて制作物の開発をし、その後、各課題に対する解決策とその制作物の最終発表を行いました。参加した生徒からは「進路を決めるきっかけになった」など、伴走支援したメンバーにとって嬉しい感想が寄せられました。



エンジン Engine の活動 Engine

Engine は昨年設立したプロジェクト企画サークルです。学生ライフをサポートする公式 LINE「トミコエ」を通じて、学生生活での困りごとをアンケート形式で収集・プロジェクト化し解決を目指しています。今年度は主に 2 つのプロジェクトに取り組みました。1 つ目の「ランチボックスフェア」では、4 月の入学式で新入生向けに地元飲食店の弁当を販売しました。これは、本学の大学生協の依頼を受け、地域の飲食店と協力して実施したプロジェクトです。2 つ目の「廃棄パンを救い隊」では、アンケートで食に困っていると回答した学生を支援するため、NPO 法人フードバンクとやまと連携し、廃棄予定のパンを大学内で配布する活動を定期的に行っています。



【継続中】 制服をリユースする仕組みづくり

昨年度、射水市公募提案型市民協働事業に採択され、射水市の担当課(環境課・子育て支援課)および地域の企業や関係機関と共に取り組んでいる、制服などをリユースし循環する仕組みづくりについて、今年度も継続して実施中です。

譲渡会: 毎月 1 回(最終日曜: 10 時~13 時)開催中
回収ボックス: 市役所(本庁舎)1 階エントランスに設置中

10 月 6 日(日)射水市「環境とくらしフェア」
(ミライクル館)に特設ブース出展予定です!



詳細・問い合わせ
はこちらから



COCOS 活動報告①

Cafe しえる

Cafe しえるは、富山県立大学の近くにある静かな住宅街にたたずむカフェです。そこでは障がいをお持ちの方とスタッフが一緒に働いています。COCOS は、Cafe しえるを盛り上げるため活動しています。

前期の活動として、Cafe しえるについて多くの人に知ってもらうため学内で定期的に行っている弁当販売を7月3日(水)と24日(水)の2回にわたり実施しました。メニューはCafe しえるで実際に販売している中から角煮丼、からあげ弁当、オムライスなどと惣菜やスイーツを選びました。今回は、前回までの販売時間と異なり、お昼から夕方に変更しました。この時間に販売したことにより、これまで弁当を購入することがない方にも利用していただきました。

今後もCafe しえるを盛り上げるための工夫をし、引き続き学内外の方に広く知っていただけるような活動を進めていきます。



いみず学生アイデアコンテスト

いみず学生アイデアコンテスト(射水市政策推進課・主催)は、学生の視点で射水市の課題解決につながる企画提案をするコンテストです。

COCOS は、海王丸パークにある緑のパーゴラの利用促進について提案し、一次審査を通過後、6月30日(日)に射水市役所で行われた最終審査で優秀賞を受賞しました。海王丸パークは、県内有数の観光スポットの一つですが、来訪者の滞在時間が短いことが課題となっています。そこで、滞在時間を延ばすために、海王丸パーク内に立地する「緑のパーゴラ」を活用した謎解きゲームやキッズスペース、誘導看板の作成を企画しました。

今後は、射水市の企業や保育園と協働して実証実験を行い、12月末頃に射水市役所で成果発表を行う予定です。



学生団体紹介 地域連携班 RUN

地域連携班 RUN は、「豊かな経験を地域とともに」をモットーに活動しているボランティアサークルです。

私たちは看護学部のある富山キャンパスを拠点とする初のサークルで、地域に暮らす子どもから高齢者まで幅広い世代との交流を通して地域と共に成長することを目標に活動しています。富山市野外教育活動センターで行われるイベントにボランティアとして参加したり、県内の老人保健施設で行われるイベントへの参加、学内外の他のサークルとコラボして一緒に企画を行ったりしています。

学生は普段関わる機会のない子どもや高齢者との交流を通して、関わり方やニーズを日々学んでおり、座学だけでは得られない知識と経験をつけています。地域連携班 RUN は自分の興味のある活動にだけ、自分の好きな時に参加することができます。また、私たちは県立大の学生として、地域住民・企業のみならず共に地域を盛り上げていきたいと思っています。工学部・情報工学部の学生も看護学部の学生も随時募集しています。私たちと一緒に地域の中でも活動してみませんか？



令和6年度 地域志向教育プログラム・学生自主プロジェクト・地域志向研究 採択一覧

本学では、学生が地域と主体的に関わり、地域課題解決や学生自身の成長が遂げられる活動を推進すべく教員、学生による取り組みの支援を行っています。教育・研究・学生自主プロジェクトの3枠で学内公募し、採択結果は下記の通りになりました。

地域志向教育プログラム

テーマ	代表教員
1. キャリア教育「自分の未来像」～小学6年生とコラボ～ 2. 楽しいゲームで身近な科学を考えよう ～富山県立大学による出張講座～	教養教育センター 講師 リオリガ
視覚障がい者のAI関連分野就業意識の醸成を目指した 科学体験教室の実施と評価	データサイエンス学科 准教授 本吉達郎
情報機器による丘陵地区観光の魅力創出	情報システム工学科 教授 中田崇行
黒河の地名と歴史を調べる	教養教育センター 教授 福原忠
地域小学生のための英語教室(2024年度)と 地域の魅力向上等を通じた国際交流	教養教育センター 准教授 山崎大介
とやまの持続可能な発展：若者の視点から	環境・社会基盤工学科 准教授 中村秀規
小学生のためのドローンを活用したプログラミング体験教室 (子どもたちに分かりやすい教授方法の工夫と教師への教授指導法)	知能ロボット工学科 教授 岩井学

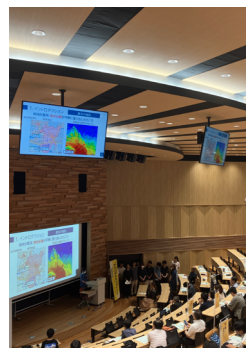
学生自主プロジェクト

テーマ	学生団体・代表者
学生による事業発足を目的としたマルシェ出店	Engine 電子・情報工学科専攻 2年 加藤哲朗
ひまわり迷路の作成 コキアの育成	ひまわりサークル 環境・社会基盤工学科 2年 高橋克弥
射水市の魅力発見及び、新湊周辺の賑わい	地域協働研究会 COCOS 知能ロボット工学科 3年 平野愛奈
4面VRシステム「CAVE」を用いたコンテンツ開発による 富山県立大学の魅力向上	学生団体 POLYGON 情報システム工学科 4年 齊藤光汰

地域志向研究

テーマ	代表教員
ため池改修事業と生物多様性保全の両立を図るための 実践的手法の開発	教養教育センター 准教授 鈴木浩司
富山県を想定した次世代配電系統における 再エネ機器運用システムの体験環境構築	電気電子工学科 助教 阿久津慧
小矢部市中山間部における廃校校舎を利用した大気環境観測2024 —大気環境の長期変化の解明と地域への情報提供—	環境・社会基盤工学科 教授 渡辺幸一

令和6年7月11日(木)に5団体、12日(金)に4団体が口頭発表形式で成果発表を行いました。本学学生、教員、地域の関係者など2日間で約180名の参加がありました。



【第1日目】 7月11日(木) 13:10～14:40

- ① 『『夢みる給食』-- 富山でのキャラバン上映会から考える食と農と民主主義』
プレゼンテーション演習(環境・社会基盤工学科 中村秀規 准教授)
- ② 「ドローンを活用したプログラミング体験教室の拡充
一子どもたちに分かりやすい教授方法の工夫」
プレゼンテーション演習(知能ロボット工学科 岩井学 教授)
- ③ 「黒河の地名と歴史について」
教養ゼミⅠ(教養教育センター 福原忠 教授)
- ④ 「学生と地域をリアルな声で繋ぐ『学生ライフお助け LINE トミコエ』」
Engine
- ⑤ 「COCOSの活動報告」
地域協働研究会 COCOS

【第2日目】 7月12日(金) 14:50～16:20

- ① 「インフラ維持管理の効率化を目指して簡易技術の活用を考える
～DIY補修、簡易載荷試験～」
トピックゼミⅠ(環境・社会基盤工学科 伊藤始 教授)
- ② 「インフラ維持管理の効率化を目指して簡易技術の活用を考える
～タブレット点検、360°カメラ点検～」
トピックゼミⅠ(環境・社会基盤工学科 伊藤始 教授)
- ③ 「POLYGONによる地域協働活動の報告」
学生団体 POLYGON
- ④ 「学生と地域をリアルな声で繋ぐ『学生ライフお助け LINE トミコエ』」
Engine
- ⑤ 「COCOSの活動報告」
地域協働研究会 COCOS

地域で学ぶフィールドワークの様子①



【庄川】



【射水市新湊博物館】



【富山県中央植物園】



COCOS 活動報告②

速川地区での交流と学びの2日間

8月5日(月)、6日(火)に合宿を行いました。氷見の中山間地域である速川地区での暮らしを学びながらCOCOSメンバー内の交流と懇親を図ること、中山間地域振興のための体験ツアー(山間留学)のモニターとして、感想や意見を地域にフィードバックすることを目的として実施しました。1日目はメロンの栽培体験と桃の収穫、2日目はラジコン・刈払草刈り体験と中西進資料室の見学を行いました。



学生と地域の方が一緒に食事を作ったり、食べたりすることで地域の方との交流も図りました。さらに、段ボールベッドでの就寝や防災非常食を通して避難生活の体験も行いました。2日間を通し、地域の魅力の発見や農業の大変さ、地域交流の楽しさなど、普段の生活で感じることはできない気づきを得ることができました。

アドベンチャーガーデン能美への訪問

7月27日(土)、石川県にあるアドベンチャーガーデン能美を訪問しました。2025年春に完成予定の太閤山ランドのジップライン建設プロジェクトに参加できる機会をいただき、その話を伺うことが訪問の目的でした。当日は、アドベンチャーガーデン能美でジップラインを体験し、さらに、太閤山ランドのジップライン建設について、改修案の全体イメージパースなど詳細なお話も伺いました。また、アドベンチャーガーデン能美の村本宏斗社長からジップラインに関する設計・仕組みの詳細なお話をお聞きしました。この訪問を通じて、ジップライン建設についての理解を深め、日常生活では得られない経営者としての視点や考え方も学ぶことができ、非常に貴重な経験となりました。今後も、太閤山ランドのジップライン建設に向けて関係者の皆さんと協働していきます。



流ぶらシンポジウム開催

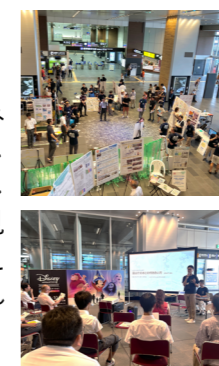


行政・住民や多様な関係者・科学者が共創する研究プロジェクトにおいて、流域についてともに考えつなげるためのシンポジウムが開催されました。

7月27日(土) 10時～16時
富山駅南北自由通路

- 流ぶらとは? -

流域に関わるあらゆる人が、みらいの災害に備えてどんな暮らしがしたいか、どんな仕組みが欲しいか考えるために、科学的な知見や互いの思いを知り、ともに考えつなげるためのぶらっと立ち寄れる参加型プラットフォームです。



女子スポーツ試合会場にて HPV ワクチン啓発を実施

看護学生(学部生および院生)が、子宮頸がんなどを予防するHPV(ヒトパピローマウイルス)ワクチンをめぐり、接種機会を逃した人たちのための「キャッチアップ接種」を呼びかける活動に参加しました。この取り組みは「駅ナカ保健室」との協働で、女子ハンドボールチーム「アランマーレ富山」の試合会場(富山市総合体育館)にて行われました。





『記憶がよみがえる!』 古写真のカラー化 地域で反響

小杉まちづくり協議会 理事 宮城克文

「懐かしいのう～」
「昔を思い出したわ!」

カラー化され、鮮明になった古い写真を見た地域の大先輩たちは、みな口々にこう話します。中には、顔を紅潮させて昔語りをする長老も…。

やり方次第で地域資源が輝きを増すことを、この協働事業が気づかせてくれました。

小杉まちづくり協議会には、古い写真を収集するプロジェクトチームがあり、近年は県立大学の小林一也教授の教養ゼミとの協働により、さらに取り組みが進化しています。

令和4年度は、地域イベントの古写真展示の際にゼミ生に若者の視点で古写真の紹介コメントをつけてもらったほか、古写真を絵札にしたカルタをゼミ生と一緒に作り、児童と遊びました。

令和5年度は、古いモノクロ写真のカラー化に取り組みました。

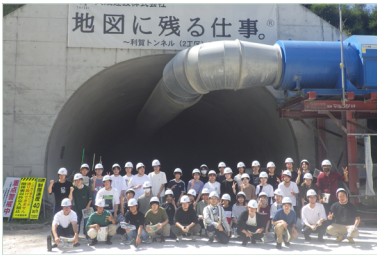
ゼミ生は、小杉まちづくり協議会がこれまでに集めた古写真をAI応用の着色ソフトでカラー化。地域でフィールドワークを重ねて手動で精度を上げていき、完成したものを射水市役所のロビーに2週間展示しました。



「最近の技術ちゃ凄いのう」
「町が賑わいを取り戻したみたい」

会場には多くの方が鑑賞に訪れ、大きな反響がありました。
協働のおかげで、私も最近では地域の未来が楽しみになってきました。

地域で学ぶフィールドワークの様子②



【利賀ダム】



【里山(射水市金山)】



【立山・弥陀ヶ原】

着任挨拶

令和6年4月より地域協働支援室の事務を担当しております、村田恵美と申します。生まれも育ちも射水市です。進学を機に県外へ出て、しばらく生活していましたが、夫の転勤で10年前に地元に戻ってきました。

支援室では、今まで知らなかった地域の活動や、大学・学生さん達の取り組みに触れることができ、驚きと感心の連続です。

慣れ親しんだ地で、まだまだ新しい発見があることにワクワクしています。これからどうぞよろしくお願いいたします。

公立大学法人富山県立大学 地域協働支援室

<https://tpu-cbl.net>

〒939-0398 富山県射水市黒河 5180

射水キャンパス(中央棟1階N-103)

TEL: 0766-56-7500

E-mail: kyodo@pu-toyama.ac.jp

編集: 地域協働研究会 COCOS

発行: 令和6年9月



CBLnews
バックナンバー

